

Ⅰ 《公開意見交換会のまとめ》

鎌倉市行政評価アドバイザー

鎌倉市民評価委員会委員（専門評価委員） 川口 和英

はじめに

平成 27 年度は行政外部評価について、特に、スポット評価で対象となった部分について、市民との意見交換を行う場として、鎌倉市行政外部評価公開意見交換会が開催された。行政評価を市民に内容を知ってもらうとともに、市民の意見を直接聞き外部評価に反映させること、担当部局がそれぞれの施策について説明責任を果たすこと等が意図されている。

評価の概要

1. スポット評価対象分野

- ・子育て（主に子育て支援事業、保育所等整備事業）
- ・歴史環境（主に史跡整備・文化財関連）

2. スポット評価についての原局へのフィードバック

- ・スポット評価については、原局と調整した結果のフィードバックを行う。
- ・各委員は、子育て（主に子育て支援事業、保育所等整備事業）及び歴史環境（主に史跡整備・文化財関連）の事業について、詳しく聞きたいところ、原局に提出を求めたい資料等について事前にリクエストをした。

3. 当日配付資料等

- ・事業概要の説明資料
- ・第 3 期基本計画の冊子
- ・前期実施計画の冊子
- ・事務局から本日の趣旨等を説明する資料（この中で、今回対象は分野に含まれる全事業ではないことを説明）

4. 当日の流れ

当日の進行は以下のように行われた。

- ① 原局が事業について説明
- ② 説明を受け、委員会から原局に質問、やりとりを行う（ここで参加市民が事業の内容について理解）
- ③ 原局とのやりとりを踏まえ、委員の間で意見交換
- ④ 委員の意見交換の中から論点を見つけ、委員から参加市民に投げかけ、意見を出してもらう
- ⑤ 参加市民からの意見を踏まえ、委員会からのまとめのコメント

5. 意見交換会論点

時間的には、大きな論点は各分野2つ程度を想定し、その内容について意見を求めた。

(1) 子育て

- ・待機児童の解消について

保育所の整備が潜在需要を喚起する面もある中、今後もまだ施設整備を続けるのか。

施設をたくさん作る場合、将来的にニーズが減ったら、施設はどうするのか。

- ・公立保育園の民営化について

公立の役割、公立・私立のメリット・デメリットなど。

公立の拠点園は、虐待等の対策の受け皿となっているのか。

(2) 歴史環境

- ・史跡や文化財の保存、整備について

たくさんの文化財等があり、費用も必要だが、今後どうしていくべきか。

- ・(仮称)鎌倉歴史文化交流センターについて

教育施設ではあるが、人がたくさん来ることになるだろう。

維持管理費用をできるだけ稼ぎ出すということも、今の類似施設の一般的な課題となっている。

しかし、周辺環境への配慮を十分に行うことも非常に重要である。

両論ある中で、どうしていったらよいか。

委員の間で意見交換の中から論点を出し、その論点について、参加市民への投げかけに移る進行とした。市民と原局とのやりとりとは行わなかった。

以下、それぞれA B Cのカードを提示し、これらの回答の中から代表的意見について抽出を行った。

[子育て（こどもみらい課の所管事業）]

論点①：待機児童の解消について

A：施設整備を進める

B：地域での子育てを進める

C：既存施設の活用を進める

⇒A、B、C全てのカードで挙手があったが、Cを選択した方が一番多かった。

論点②：公立保育園の民営化について

A：拠点園は公立、それ以外は民営

B：今後の新設も含め、保育園は全て公立で進めていく

C：拠点園も含めて、民営化を検討すべき

⇒AとCが拮抗しており、Bも何名かが選択した。

[歴史環境（歴史まちづくり推進担当及び文化財課の所管事業）]

論点①：史跡や文化財の保存整備のあり方について

A：お金はかかるが、史跡や文化財は今後も継続的に保存する

B：限界もあるので、何らかの基準を作った上で保存する

⇒概ねAが1/3、Bが2/3となった。

論点②：（仮称）歴史文化交流センターのあり方について

A：人が集まる施設であり、せつかくコストをかけるので、楽しく収益性が上がる方向性がよい

B：周辺環境を考え、徹底的に教育施設として位置付けていったほうが良い

⇒Aを選択した方が圧倒的に多いが、Bを選択した方もいた。

参加市民との意見交換内容

1. 子育て（主に子育て支援事業、保育所等整備事業）

（1）論点①：保育園の待機児童を減らすために

A：施設整備を進める

B：地域での子育てを進める

C：既存施設の活用を進める

⇒A、B、C全てのカードで挙手があったが、Cを挙げた人が一番多かった。

[A、B、C評価について]

参加市民①：

「B：地域での子育て」はあくまでサポートではないか。待機児童は、遠くまで働きに出ている親の問題なので働いている間きちんと子供を見る施設という意味で「A：施設整備を進める」ことも必要であり、地域にゆだねることは適さない。このようにA、B、Cでは答えにくい。

参加市民②：

実際子供をもって保育園に入れるか心配している側からすると、A、B、Cの選択では困るのではないかと。どのような需要があるのか提示した上で質問してもらわないと、意見が言えない。

参加市民③：

もっと具体的な説明を受けないと、意見が言えない。A、B、Cは全て必要な対策であり、例えばAだけでは解決しない。

[待機児童について]

参加市民②：

子育てでは幼稚園もある。保育園の増設を考える際、今年は50人の待機児童がいるならば、極端にいうと、50人のために1園たてればよいが、保育園のニーズが多い年齢や地域性を考えると、どこかに施設を立てて解決する問題ではない。

参加市民③：

感覚では、待機児童は絶対なくなる。市は、的確に評価をしてもらえるように課題を出してほしい。

参加市民④：

50人の待機児童を、いかにゼロに近くしていくか。対策にはハードとソフトがあるが、地域での子育てではソフトにあたる。地域での子育ては、あくまでサポート体制になると思う。

参加市民⑤：

「B：地域での子育てを進める」を選択した。乳幼児を預ける場合はそれほど広い場所はいらない。歩くようになると、ある程度広い場所が必要だし、ある程度大きくなると教育も必要になる。保育士の資格を持っているが、今は別の仕事をしている。地域で資格を持っている人も大勢いると思う。

私立保育園の保育士が研修に行くときには、私立保育園に公立保育園の保育士を派遣して私立保育園の保育士を研修に行かせる話があったが、個人で子どもを預かるにしても、資格を持っていても、運転免許と同じで長いこと預かっていないと現代の子育てに追いついていけないところがある。市である程度実習をさせて、預かってよいという許可を与えれば、預かることができると思う。乳児は資格がある人が家庭で預かってあげられると思うので、希望を募って研修をしてはどうか。保育料金の問題もある。家庭の事情で保育料を取れない人もいると思うので、市で補助金を出してはどうか。

参加市民⑥：

Cを選択した。例えば高齢の方や子どもたちが同じ場所で集うと、両方に良い影響があると思う。子どもだけ、大人だけでなく、様々な年代の人が関わりあうのが良いと思う。

参加市民⑦：

「A：施設整備を進める」を選択した。待機児童の方はフルスペックの保育所を望んでいるので、BやCはサポート的な選択肢ではないか。Aを推進していかない限り、根本的な解決にはならない。それを整備したら、新たな待機児童を生むという話だが、ある意味好循環かと思う。私も昔子供を保育園に預かっていただいたが、当時は専業主婦でお子さんを幼稚園に預ける方が主流だった。今日話を伺って、時代が変わったことを痛感した。

「A：施設整備を進める」の施策が、当面の我々の社会を考える上で重要な選択肢ではないか。冒頭、市からの説明があり、非常に頼もしい、よくやってくれていると思ったが、かといって、鎌倉は子育てしやすいという噂はあまり聞かないので、そのあたりはもっと魅力をアピールしていただきたい。

参加市民⑧：

「C：既存施設の活用を進める」について、おそらく預けようという方が、いわゆる通常の保育園を希望するのはやむを得ないと思う。具体的にCのイメージがあまりわからないので、これ以上は申し上げない。

当面どちらに重点を置くかという視点で、お金を使ってでも、施設の整備を当面は進めていくのが、おそらく正しいという印象を持っている。

(2) 論点②：公立保育園の民営化について

A：拠点園は公立、それ以外は民営

B：今後の新設も含め、保育園は全て公立で進めていく

C：拠点園も含めて、民営化を検討すべき

⇒AとCが拮抗しており、Bも何名かが選択。

[参加市民層について]

参加市民①：

こういった会では、子どものおじいちゃん、おばあちゃんの世代が参加して、20年30年前の記憶をたどりながら話をしている、あまり現実感がない。それより、忙しいとは思いますが、今現在子育てに頑張っている世代も、こういった場所に出てきてもらって、生の声を聴きたいと思う。もっと人選の方法を考えて、別枠で子育て中の人も呼べば、議論がもっと進むと思う。

[公立の拠点保育園、保育園の民営化について]

参加市民①：

先ほどからの話では、公立の拠点園はとても立派で、人材も立派なもので、お金もたくさんかかるが、民営化すれば安くなるという話だ。民営化が必ずしも悪くなるとは思えない。管理、システムが整っていないとばらつきが出るので、そのあたりを、きちんとする必要がある。

参加市民②：

保育園の定員を超えて、子どもを受入れているのではないかと。私立の保育園では、そういった場合、保育士の人数はどうなるのか気になる。

参加市民③：

Cを選択した。基本的に民営化だから、公立だからと言って質が違って良いはずはなく、守っていなければ、もちろん守らないほうも悪いが管轄する側が悪い。公立も私立も保育料は同じだと思うし、保育士の数や施設の大きさは、規定通りでなければ認可されない。

参加市民④：

Aを選択した。施設を整備するというお金がかかることを、市がやるといっている。私はAをあげたが、それは個人的な意見であり、BやCが気に入らないわけではない。一番やってほしいのはAだが、それを市がやるといっているのが驚いた。私は旧国鉄の民営化を経験した。公がやっていることでも、どんどん民営化していく。やらせればよい。民営化には大賛成、私は信念でそう思っている。

参加市民⑤：

Bを選択した。民間は、倒産の可能性があるのが心配。いつも安泰とは限らず永遠に継続する保証はない。破たんして閉鎖してしまうようなことがあると、大変。公立を残していくことは必要だと思う。

参加市民⑥：

鎌倉市は住みたい市のランキングでは上位だが、子育てでは順位が落ちていると思った。

参加市民⑦：

学童保育が必要なお子さんは、ほとんどが保育園から上がってくるお子さんとなっている。学童保育のニーズについては、本当に学童を必要としているのか、疑問なところがある。保育園の待機児童も、ちょっと預けたい人が待機児童になっている場合もあると思う。

学童の指導員は、いつも人材が不足している状態。施設を整備しても、人が集まるのかどうかと思っているので、A、B、Cのどれにも手を挙げられなかった。そのあたりを考えて施設を作っていただきたい。

2. 歴史環境（主に史跡整備・文化財関連）

（1）論点①：史跡や文化財の保存整備のあり方について

A：お金はかかるが、史跡や文化財は今後も継続的に保存する

B：限界もあるので、何らかの基準を作った上で保存する

⇒Aが1/3、Bが2/3。

参加市民①：

「A：お金はかかるが、史跡や文化財は今後も継続的に保存」を選択した。鎌倉市は世界遺産登録を望んでいる。史跡や文化財の保存はお金がかかるのは分かるが、一度失われてしまうと二度と手に入らない。史跡や文化財があつてこそその観光地鎌倉だと思っている。これを守る努力も、住んでいるものの努めだと思う。

参加市民②：

「B：限界もあるので、何らかの基準を作った上で保存する。」を選択した。鎌倉市には文化財が300点あり、県内2位の横浜市が150点となっていた。先ほど文化財は500点と説明があつたが、この6年間で200点も増えたのか、今後どうなっていくのか、と思い、Bを選んだ。財源が文化財にかなり取られて、子育てなど他の分野の財源が削られているのだろうか、実際は分からないが、鎌倉ではそのようなイメージがあるのではないか。

（2）論点②：（仮称）歴史文化交流センターのあり方について

A：人が集まる施設であり、せつかくコストをかけるので、楽しく収益性が上がる方向性がよい

B：周辺環境を考え、徹底的に教育施設として位置付けていったほうが良い

⇒Aを選択した方が圧倒的に多いが、Bを選択した方もいる。

参加市民①：

Bを選択した。これ以上、観光客にあまり来てほしくない。観光ならそれぞれのお寺に行けばよいので、新しいものを作るなら、教育施設の方が向いていると思う。観光や儲けのためにこれ以上人が来てもらっても、今でも駅前など人でいっぱいなのに、たくさんの人に来てもらうという話は気乗りしない。

参加市民②：

Aを選択した。人を集めてPRするのは大切だと思う。知恵を出して、維持費をまかないたい。

参加市民③：

Aを選択した。人は増えてほしくないが、既存の施設の分散化になるなら、それもありではないか。学習施設だけだと、今まで私もそれほど縁がなかったし、誰が利用するのか。そこに投資するのはどうだろうかと思う。

参加市民④：

Aを選択した。鎌倉は税収が少ない。鎌倉市を維持して行くには、観光に頼るしかないと思う。付加価値を高めて、鎌倉でしか見られないものを展示してはどうか。

この時期にセンターを計画したということは、2020年の東京オリンピックに焦点を合わせて計画しているのか。そうでなくても、最近の海外からの観光客は、事前に詳しくインターネットで下調べをして来ている。せっかくセンターをつくるならば、オリンピックの期間中だけでも、語学のできる人を確保して、観光客を受け入れる体制をとっていけば、お金を産むことにつながるのではないか。

会場からの自由意見などについて

また、会場において行われたアンケートへの自由意見などから、以下のような意見がみられた。

[全体について]

- ・有意義な機会になった、出た意見や要望を前向きに行政が形にして行ってほしいと願う。
- ・産業振興において、鎌倉市内の個人事業や零細企業が利益を出し、事業活動や税金を通して、鎌倉市の住民が豊かに生活できるような施策を講じてもらいたい。
- ・意見交換会で意見の視点のズレが気になる発言もあったが勉強になった。
- ・市民の意見がいろいろ出て、大変参考になった。継続されたい。
- ・さらにこのような形で市民の意見を聞く会を開催したということ、市政の成果のお墨付きにされるのは困る。鎌倉の文化財は鎌倉市民だけのものではない。しかし市民が食うや食わずで文化財を守るわけにはいかないので、財源のバランスを考えることが絶対必要。

- ・ 広報紙などで何となく目にしている言葉や数字などについてしっかり向き合う機会を与えて頂いてありがたかった。
- ・ 市民の意見がどう反映されるのか知りたい。計画書の中に詳細な費用の数値がないのはおかしい。
- ・ 色々な意見が聞けて面白かった。今回、具体的な修復費用などの情報を公開していただくと、また違った興味が湧くと思った。
- ・ 意見交換会なのにあまり発言する機会が少ないように思った。
- ・ A B Cは複数の結論の選択の位置付けだが、結論に至る道筋を示してほしい。
- ・ 一般市民参加の意見交換会であるが、条件として主旨を理解していないと、意見の集約は困難な感がある。
- ・ A B Cの設問が極端
- ・ 質問に対する2択3択は簡単だけど、その質問の背景が幾通りあると思われ、そうすると回答も変わる。
- ・ 一般市民参加の意見交換会であれば、方法としては良かった。
- ・ 役所の考え方が分かった。こうしたやり方で市長や市の人が市民の声を聞ける利点がある。

[参加層について]

- ・ 年代がかたよっている。20代～40代の方の意見もほしい。
- ・ 現在進行形の年代の参加が必要では。
- ・ 各テーマに適した（年代、世代、含めて）市民の参加が今後必要だと感じる。

[テーマ設定について]

- ・ 広域で深いことなので、評価点がわからない点があった。
- ・ 待機児童という話よりも、子育て家庭支援の話の方がよかったと思う。
- ・ （仮称）鎌倉歴史文化交流センターについては、学習型+参加型、参加型（金もうけだけではない）が絶対必要。

[評価委員の業務について]

- ・ 評価委員の皆様のお仕事（役割り）が垣間見られてよかった。意見交換会はいろんな意味で反省材料になったのではないか。

[資料などについて]

- ・基礎データとして数字資料が欲しかった。

[その他]

- ・Facebook等でもっと議論できる機会を多く作ってほしいと思う。特に計画（実現・・・の策定）のような、実現されていないものについての評価は難しいので、深く、広範囲にしかもすべての実現項目を関連付けて吟味していく必要があるかと思う。
- ・経営企画課が担当されて市民の意見を聞くのだからハード面のものはともかく、教育、福祉、健康等ソフトが重要な施策についてその評価の求め方はもっと工夫してほしい。

[進行について]

- ・聞きたいポイントが分かりにくかった。
- ・計画→各事業間の関連性（方針、戦略、予算も含めて）を整理して、評価のポイント（説明を含めて）を示してから意見交換を行い、さらに出てきた意見を評価ポイントと照らし合わせながら最終評価②つなげていくのか、どうか。

公開意見交換会を受けた評価委員の意見等

今回のスポット評価によるヒアリングや公開意見交換会を受け、市民評価委員から、以下のような意見があった。

1. 子育て（主に子育て支援事業、保育所等整備事業）

（1）施策等の推進に向けた意見・提言

[すべての子育て家庭への支援]

- ・スポット評価開催時に原局より提供された資料「実施事業の概要」の記載内容については、再考の必要がある。当領域で言えば評価委員からの質問で答えられた内容・データ（待機児童数の推移、待機児童解消の具体的計画＝定員増計画等）を盛り込むことで、一般市民出席者の理解も深まったのではと考える。このことは「歴史環境」についても同様であるが、更に言えば「個表フォーマットの再吟味」の必要性に行き着くと考える。

[子育て支援施設の整備]

- ・拠点園を公設で行い、他のものを民営化とすることが望ましいと考える参加市民が比較的多かった。その一方で、法令にのっとりた施設運営、安全性の担保の上で民間によりすべて行えばよいという意見、経営的な継続性への不安を感じるという意見もみられた。

・子育て分野には様々ニーズがあり、すべての市民を満足させる事は困難だと思うが、拠点園による私立保育園への支援等、出来るだけ不公平感を無くし、将来につながる取り組みが行われる事を期待する。

・子どもセンター等の開設に当たっては、公共施設の統廃合とあわせて、他の目的を持った施設と合わせた複合施設にする事によって、付加価値を付けたり、今後子どもが減少した際の用途変更が容易になるよう、工夫して頂きたい。

・公立保育所の運営と維持管理。

・職業を持つ母親のニーズを知り、対応してほしい。

(2) 施策等の推進における課題・問題点

[すべての子育て家庭への支援]

・行政がすべてのサービスを請け負い、ニーズに応じていくことは現代では難しいと考えられる。施設整備のみに頼るのではなく、ある程度市民参画や地域で子どもを見る方向性などにより、負担を軽減していく方向性を考える必要があると思われる。

[子育て支援施設の整備]

・拠点園は公立、その他の園は民間という考え方であるが、財政面への影響を考慮すれば、中長期的には拠点園の民営化も射程に入れていく必要があるのではないかと考える。公開意見交換会の場では、公に対する安心感、民に対する不安感を指摘する声もあったが、民営化とは手放して民間に任せるのではなく、公の指導、管理の下で、民の力を発揮してもらうことだと考える。他都市ではすでに拠点園に相当する機能も民営化されているところもみられる。

2. 歴史環境（歴史まちづくり推進担当及び文化財課の所管事業）

(1) 施策等の推進に向けた意見・提言

[歴史的遺産、文化財の保全の費用について]

・今後については補助の全廃は困難であると判断され、「出来る範囲での負担」を継続せざるを得ないとする。併せて、「補助対象史跡・文化財」の選定については当該事業が<半永久的に継続>することを勘案し、「選定基準ハードルの引き上げ」を常時検討する必要がある（特に市指定文化財等）。

・現況で最も多くの金額となっている補助対象事業は、鶴岡八幡宮境内環境整備事業（段葛）であり、事業費12.2億に対する市負担額は約960万円である。多くは寺社に対するものであり、市民への還元なども今後考えていってほしい。

[鎌倉歴史交流センターについて]

- ・ 入場料収入を差し引いた「年間運営費負担3500万円」（収入は多めに見ているからもっと多い？）には鎌倉市の他の事例が不明だが「箱もの運営費負担は当然」という考え方が根底にあると考える。財政難・人口減少時代到来等を勘案した時、この考え方を払拭し「自らの運営費は自ら稼ぐ」という思想に転換させたい。
- ・ (仮称)鎌倉歴史交流センターの最大の課題は、その位置特性からみた周辺環境への影響である。閑静な住宅地であり、周辺住民への悪影響は極力避けなければならない。また整備に至るまでの周辺住民との話し合いの結果も重視しなければならない。それらのことが原局ヒアリングの中で明確には伝えていただけなかった点は残念である。
- ・ 市民からの多額の税金によって文化財が保護されていることから、市民自らがそれらを保護しているとも言えるのでは無いだろうか。入場料を徴収している文化財展示施設等においては、市民自ら保護しているにもかかわらず、それを見るために更に入場料を支払うというのは何となく違和感がある。全額無料とはならずとも、市民が優遇される制度があっても良いのではないか？
- ・ 近隣他市より多くの文化財を保有しているので、それに係る経費も増えることは致し方ないが、財源にも限りがあり、新たな財源を生み出すような視点も持ち解決策を考えていただきたい。

(2) 施策等の推進における課題・問題点

[歴史的遺産、文化財の保全の費用について]

- ・ 「歴史環境を保全する古都鎌倉」というテーマは行政評価の観点からは何か悩ましい。「歴史環境保全」をベースにした<観光>は鎌倉市最大の産業であり、その貢献度は極めて高い。従って「史跡・文化財の保存・管理」は必要不可欠なものであり、基本的に「与えられた予算の中で粛々と進める」事業と認められるからである。
- ・ 文化財保護について、今後も指定文化財数が増加するに伴い、それらを保存するためのコストも増加する事になる。市によって行われている事業の中における、この事業のプライオリティを考慮して、将来的には他の方法による保存（他市に預ける等）や保存の断念も考えていただきたい。
- ・ 史跡の公有地化を図り、公開、活用を進めているが、整備及び維持管理の財源確保が必須である。他の文化都市や海外の例なども調べて、財源確保への努力に期待する。

[(仮称) 鎌倉歴史文化交流センターについて]

- ・ (仮称)鎌倉歴史文化交流センターの最大の課題は、その位置特性からみた周辺環境への影響である。閑静な住宅地であり、周辺住民への悪影響は極力避けなければならない。また整備に至るまでの周辺住民との話し合いの結果も重視しなければならない。それらのことが原局ヒアリングの中で明確には伝えていただけなかった点は残念である。
- ・ 周辺への影響を考慮しながらも、実際に訪問する人が多いであろう観光客対策は不可欠であるが、具体的な方向性は示されていない。観光セクション、都市整備セクションとの

連携を図っていただきたいところであるが、担当者の任務は整備するところまでといったセクショナリズムを感じたのは私だけではないと思う。文化財担当が文化財の保全活用という視点だけで進めるのはいかがなものかと思う。

- ・ヒアリングした状況では、縦割り行政の状況を非常に感じた。教育施設ではあるが、実際には、観光客も訪れることを想定できなくてはならない。

- ・鎌倉歴史文化交流センターの現段階報告を聞き、機能・内容ともにいくらかでも運用に可能性があるように感じた。作る以上、効果的な運用をもとめたい。原局はあくまで教育などを目的とした施設だとしているが、住民や、交通、観光などと連携してよりよい施設のあり方を考え出すべきだと思う。

- ・鎌倉歴史文化交流センターは、利便性も良く、来訪者は多いと思われる。子ども達が歴史に興味を示すような楽しい面白い、魅力ある施設となる必要があり、また維持するため財源の確保の必要あり。

